

日本語の疑い表現「やら」の意味と用法 —中国語の疑い表現との対照を兼ねて—

丁 寧

要旨

日本語には述べ立て文と問いかけ文の間には疑い文というものがあり、それを作るために様々な形式が用いられていることは仁田(1991)などで既に指摘されているが、今までは主に「ダロウカ」「カナ・カシラ」という表現しか扱われていなかった。また、中国語との対照研究もなされているが、考察対象は“呢”に限られている。しかし、日本語にも中国語にもこの他にも疑い文を作る形式であると考えられる表現がある。日本語の「ヤラ」と中国語の“不知道”である。本稿では、この二つの表現の用法の特徴を明らかにし、日本語の「ヤラ」と中国語の“呢”“不知道”の対応関係について考察し、述べ立て的側面しか持たないという特徴を持つ「ヤラ」は“不知道”と類似していることを主張する。

キーワード：疑い、やら、“不知道”

1. はじめに

言語には情報を要求する問いかけ文と情報を提供する述べ立て文がある。一方、古くから指摘されているように、両方の特徴を持つ中間的な文、疑い文と呼ばれるものもある。一般疑問文が聞き手に対して情報要求するのに対し、疑い文は情報を要求せず、話し手の「わからない、不明である、疑わしい、確信がない」という心的態度（以下「疑い」）を表出するものである。(1)は問いかけ文、(2)は疑い文の例¹である。

(1) (時計を持っている相手に)

今何時ですか。 [問いかけ文]

(2) (時計のない場所で)

今何時だろうか／かな／かしら。 [疑い文]

日本語では、疑い文を作る形式には(2)のように「ダロウカ」「カナ・カシラ」がある。中国語にも疑い文があり、それを作る形式は“呢”であるとされる。

(3) A：你带着手表吗？（時計を持ってる？）

B：没有。（持ってない。）

A：现在几点了呢？（今何時だろうか。） [疑い文]

日本語と中国語の疑い文を作る形式に関する研究は数多くなされているが、その考察対象は主に「ダロウカ」「カナ」「カシラ」と“呢”に限られている。しかし、日本語、中国

¹ 本稿で提示されている例文は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（2008年度モニター版）（国立国語研究所）（以下：「BCCWJ」）および『中日対訳コーパス（第一版）』（北京日本学研究中心）（以下：「CJCS」）による。出典が明記されていないものは作例である。

語ともにそれ以外にも疑い文を作る形式であると考えられる表現がある。

日本語では、「ダロウカ」「カナ・カシラ」の他に疑い文を作る形式として「やら」という表現がある。

- (4) a. この調子だとどうなることやら。
 b. あの人の、今ごろどこで何をしているやら。

また、中国語では“呢”の他に“不知道”という表現がある。

- (5) 不知道她现在过得好不好。(彼女は今どんな暮らしをしているやら。)

本稿では、従来の研究ではあまり扱われていなかった「やら」の意味と用法を明らかにし、中国語の“呢”と“不知道”との対照を行う。

2. 日本語の疑い文の諸側面

疑い文に関する主な先行研究には、仁田(1991)、安達(2002)、宮崎(2005)がある。仁田(1991:44)は「疑いの文とは、聞き手への問いかけを意図することなく話し手の判断成立への疑念を述べたものである」としている。この定義に基づき、本稿では、聞き手への問いかけを意図することなく、話し手の判断成立への疑念を述べる文を作る形式を、疑い表現と呼ぶ。日本語では疑い表現として扱われているのは主に「カナ」「カシラ」「ダロウカ」「デショウカ」という表現である。

疑い文の典型は、「わからない、不明である、疑わしい、確信がない」という疑いや思い惑いの気持ちで文脈に問題を導入する文である。本稿では「思い惑いの疑い文」と呼ぶ。

- (6) (話し手は時計がない場所に一人でいる)

今、何時かな↓。／何時かしら。／何時だろうか。

- (7) (AとBは時計がない場所にいる)

A : (Bに向かって)

今、何時かな↓。／何時かしら。／何時だろうか。

B : さあ。

思い惑いの疑い文には、①「疑いや思い惑いの気持ちを述べる」という側面(述べ立て的側面)と、②「聞き手に疑いや思い惑いの気持ちを示すことにより、間接的に聞き手に対する問いかけを行う」という側面(問いかけ側面)がある。(6)のように聞き手のいない場面では述べ立て的側面が前面に出る。本稿では「述べ立て的な思い惑い文」と呼ぶ。また、(7)のように聞き手がいる場面では問いかけ側面が加わる。本稿では「問いかけ側的な思い惑い文」と呼ぶ。先行研究でもこのような分析がなされており、表1のようにまとめることができる。

表1 先行研究による「疑い形の問いかけ文」と「問いかけ側的な思い惑い文」の分析

	主な研究対象	問いかけ側的な思い惑い文	疑い形の問いかけ文

仁田(1994)	カナ	思いもかけぬ問いかけ	疑いを装った問いかけ
安達(2002)	カナ・カシラ	応答を強制しない質問	聞き手への配慮を表す質問
宮崎(2005)	ダロウカ	意見要求の問いかけ	丁寧な情報要求

このように、疑い文には二つの側面があることがわかるが、二つの側面のうち一方の側面のみが強化されたと考えられるものがあると思われる。まず、疑い文の中には「問いかけ」が強化され、疑い文の形をとりつつ、実質的に問いかけ文として機能しているものがある。本稿では「疑い形の問いかけ文」と呼ぶ。

(8) (上司が部下に質問する)

君、例の件はどうなったかな↑？

この場合、聞き手に疑いや思い惑いの気持ちを示して間接的に聞き手に対する問いかけを行うというよりは、疑い文の形式をとることにより、聞き手に情報を要求するという意味が弱まり、「知っているのであれば教えてほしい」という気持ちの問いかけになっていると考えられる。「カナ、カシラ」及び「デショウカ」はこの種の用法を持つが、「ダロウカ」は持たない。

次に、疑い文の中には、「～かもしれない」という気持ちで話し手の不確かな判断を述べるのに用いられるものがある。本稿では「不確かな判断の疑い文」と呼ぶ。「不確かな判断の疑い文」は特定の命題を不確かな形で提示する文であるため、真偽疑問文の形のみが用いられる。

(9) A：今何時？

B：(空を見て)七時かな。

この種の疑い文は、疑い文の「述べ立て的な側面」が強化されたものであり、(9)のように聞き手がいる場面で用いられた場合は情報提供的な側面が加わることになる。「カナ」「カシラ」「デショウカ」は「不確かな判断の疑い文」になりうるが、「ダロウカ」は「不確かな判断の疑い文」にはならない。

このように、疑い表現が用いられる文は文脈などによってその性質が異なる。上で見てきた日本語の疑い文の様々な側面をまとめると以下のようなになる。

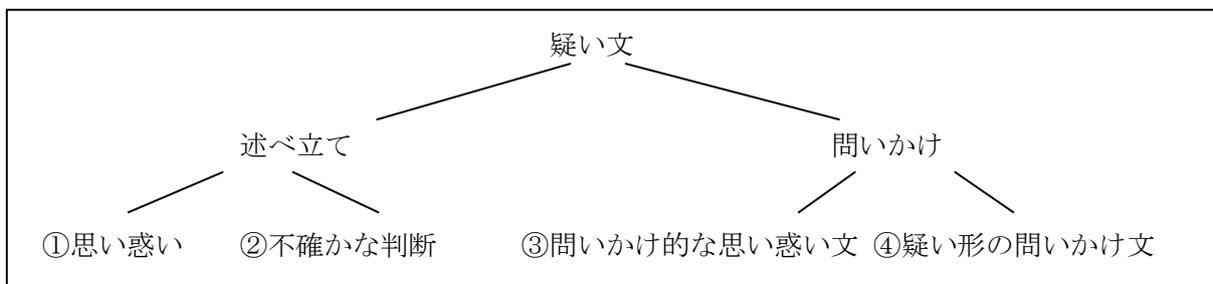


図1 疑い文の諸側面

以下ではこの枠組みに基づき、日本語のもう一つの疑い表現「やら」について考察する。

3. 疑い表現としての「やら」

3.1 本稿で扱う「やら」

前節で定義したように、疑い表現とは聞き手への問いかけを意図せず、話し手が命題成立に対する判断に至るまでの疑惑の気持ちを表す文を作る形式である。この定義に基づくと、「カナ」「カシラ」「ダロウカ」「デショウカ」の他に、従来の研究ではあまり扱われていない「ヤラ」という形式も日本語の疑い表現であると言える。

- (10) a. この調子だとどうなることやら。
 b. こいつ、何考えているのやら。
 c. あの人、今ごろどこで何をしているやら。

「ヤラ」は、「ニヤアラム」(断定助動詞ナリの連用形ニ+疑問助詞ヤ+動詞アリ+推量助動詞ム)が変化した形式である(『大辞林』(三省堂))。副助詞、並立助詞、終助詞の三つの用法がある。

- I 副助詞: 体言および体言に準ずる語、一部の副詞、助詞などに付く。
- ① [疑問・不定を表す語に付いて], 不確実であるという意を表す。
 - ・何のことやら, さっぱりわからない。
 - ② [「とやら」の形で], はっきり言わずに, ぼかして言うときに用いる。
 - ・中村とやらいう人。
 - ③ [「…やら…やら」の形で], 下に打ち消しの語を伴って, いずれとも不定である意を表す。
 - ・どれとどれがほんもんやらにせものやら分からない。
- II 並立助詞: 体言や活用語の連体形に付いて事柄をあれこれと並べあげるのに用いる。
- ・バナナやら, オレンジやら。
- III 終助詞: 文末の言い切りの形に付く。不確かな気持ちを込めて自問したり推量したりする時に用いる。
- ・何を思ってるやら。

(『大辞林』)

本稿の分析対象は終助詞「ヤラ」であるが、副助詞「ヤラ」のうち、「何が起こったのやら, さっぱりわからない」のような間接疑問文をつくる「ヤラ」も必要に応じて考察対象に含める。

疑い表現としての「ヤラ」に関する先行研究は、管見の限りではなされていないが、「やら」の用法を全体的に扱う研究に沈(1986)がある。沈(1986)は終助詞の「ヤラ」について次のように説明している。

「やら」をともなう文は、その文の構成部分として疑問詞をかならずふくみこんでいて、なにかが疑問である、ということをおぼわしているだろう。だからといって、聞き手に

たずねているわけでもない。わからないという疑問を自分自身になげだして、その疑問をめぐって、うれいあるいは不安をこめながら、《わたし》はかんがえている。それゆえに、ひとり言としてもちいられているのである。」(沈(1986:25))

以下では、この指摘もふまえて、「ヤラ」の意味と用法について考察する。

3.2 「ヤラ」を用いた疑い文の特徴

第一に、「ヤラ」は「ダロウカ、デショウカ」「カナ、カシラ」が持つ問いかけ的な用法を持たない。また、基本的に間接的な問いかけを行うことさえできない。このことは、「ヤラ」が「ダロウカ」「カナ、カシラ」に比べて平叙文に近いことを示している。

- (11) a. # (あなた) 中国人 やら ?
 b. (あなた) 中国人 {??だろうか? / でしょうか?}
 c. (あなた) 中国人 { かな? / かしら? }
- (12) (AとBは時計がない場所にいる)
 A : (Bに向かって)
 a. 今、何時 かな ↓ ? / 何時 かしら ? / 何時 だろうか ?
 b. # 今何時 やら ?

B : さあ。

第二に、「ダロウカ」「カナ、カシラ」を用いた疑い文は、「知ることができるものなら知りたい」という気持ちを含む疑いの気持ちを表すのに対し、「ヤラ」を用いた疑い文は「判断放棄」的な気持ち、具体的には「知る由もない」というあきらめの気持ち、あるいは「自分とは関係ない」という不関与の気持ちを感じられる。例えば、(13a)は話し手が「どうなるか心配して考えている」という意味の文だが、(13b)では話し手は「どうなるか」と考えてはいるが、自分からそのことについて積極的に考えるつもりはない。

- (13) a. どうなる だろうか。 / どうなる かな。 / どうなる かしら。
 b. どうなる やら。

また、「ヤラ」はあきらめの気持ちを強く表すため、情報要求を表す述語とは共起しにくい。一方、「ダロウカ」は話し手の推量に焦点を置いているため、情報要求を表す述語と自然に共起する。

(14) その辺の整合性がどうなの { だろうか / *やら } ということをお尋ねしているわけですが、もう一遍答弁いただけますか。

以上(「国会会議録」 「BCCWJ」より)

このことから、「ダロウカ」「カシラ、カナ」と比べて、「ヤラ」を用いた疑い文は「判断放棄」的な気持ち、具体的には「知る由もない」というあきらめの気持ちを表していると言えよう。

第三に、「ダロウカ」「カナ、カシラ」を用いた疑い文は、真偽疑問文、選択疑問文、疑

問語疑問文のいずれも存在するが、沈(1986)も指摘しているように、「ヤラ」を用いた疑い文は疑問語疑問文に限定される。「BCCWJ」及び「CJCS」を検索したところ、「やら」を用いた疑い文の例が合計 85 例集まったが、いずれも疑問語疑問文である。「ヤラ」と共起する疑問語は以下のとおりである。

表2 「ヤラ」と共起する疑問語

何	16	何時	2	何年	1
いつ	8	いつから	1	いつまで	2
どこ	9	いずこ	1	どこまで	3
どう	13	どうなる	10		
どんな	7	どういう	1		
どれ	1	どれだけ	2	どれほど	1
どの	1	どのくらい	1		
どちら	2	誰	4	なぜ	1

「ヤラ」を用いた疑い文において、「ヤラ」は終助詞化しているとは言っても、「カ」のように完全に終助詞化しているわけではなく、(15c)のような間接疑問文的な性質をいくらか残しているということであろう。

- (15) a. ??晴れるやら。
 b. 晴れるやらどうやら。
 c. 晴れるやらどうやら, 分からない。
- (16) a. 晴れるか?
 b. 晴れるかどうか。
 c. 晴れるかどうか, 分からない。

「ヤラ」が疑問語疑問文でしか使えないことと関連して、第四に、「ヤラ」は「カナ、カシラ」が持つ「不確かな判断の疑い文」の用法を持たない。

- (17) a. A: 太郎は結婚した?
 B: もう結婚したかな。
 b. A: 太郎は結婚した?
 B: # もう結婚したやら。

「不確かな判断の疑い文」の用法は、疑問語を含まない特定の命題を真偽が不確かな形で提示するものである。疑問語疑問文でしか使えない「ヤラ」には当然このような用法はない。

このように、「ヤラ」は基本的用法から派生した「疑い形の問いかけ文」や「不確かな判断の疑い文」の用法を持たず、「述べ立て的な思い惑い文」の用法しか持っていない。

以上をまとめると、疑い表現としての「ヤラ」の特徴として、次のことが挙げられる。

- 1) 述べ立て的側面しか持たない。
- 2) 「知る由もない」というあきらめの気持ちを表す。
- 3) 疑問語疑問文に限定される。
- 4) 不確かな判断の用法を持たない。

4. 日本語の「やら」と中国語の疑い表現の対応関係

中国語には日本語と同様に「述べ立て文」と「問いかけ文」の間に位置する疑い文が存在しており、それを作る形式には、終助詞（中国語文法の用語では語気詞）“呢”と動詞表現が副詞化した“不知道”，という二つの表現がある。

- (18) a. 他去哪里了呢。(彼はどこに行っただろうか。)
b. 不知道他去哪里了。(彼はどこに行っただろうか。)

従来の研究では中国語の疑い表現として主に“呢”が考察対象となっており、木村・森山(1992)、井上・黄(1998)などのような日本語との対照研究もあるが、“不知道”に関する研究は管見の限りではほとんどなされていない。

4.1 疑い表現“呢”

“呢”の用法はかなり広く、『現代漢語詞典(第5版)』(商務印書館)によれば、次のように分類される。

- ①疑問文の文末に用いて答えを催促する気分を表す。
例：那个人是谁呢？(あの人は誰ですか？)
- ②平叙文の文末に用いて事実を相手に確認させる。
例：他人可好呢。(彼はとても優しいですよ。)
- ③平叙文の文末に用いて動作や状態の継続を表す働きをする。
例：我正在吃饭呢。(私は今ご飯を食べています。)
- ④文中に用いると、ポーズを置く効果をもつ。
例：其实呢，他不来更好。(実はね、彼が来ないのはより都合がいい。)

本稿の考察対象となるのは①の用法である。『現代漢語詞典』は①の用法を「答えを催促する気分を表す」と説明をしているが、木村・森山(1992)が指摘するように、“呢”を用いた疑問文は、聞き手がいない場面で話し手の思い惑いの気持ちを表す自問文として用いることができるので、この説明は不十分であると思われる。

- (19) (鏡を見ながら)
我最近是不是胖了呢。(私は最近太ったかしら。)

すなわち、“呢”は日本語の「ダロウカ」「カナ」「カシラ」と同様に、相手に思い惑いの気持ちを感じていることを見せることにより、答えを催促する気分を表すことができるが、それは疑い表現としての一側面であり、本来の用法ではない。

相手に思い惑いの気持ちを感じていることを見せることは、一方で相手に回答を強制しないということにもつながる。それゆえ、“呢”を用いた疑問文は、日本語の「ダロウカ」「カナ、カシラ」を用いた疑問文と同様、丁寧な問いかけとして用いることもできる（木村・森山(1992)）。

(20) 越看着冯少怀,歪嘴子这些人的一言一行,越让人担心。这到底是怎么回事儿呢?”

朱旺说:“对,就这个让人纳闷儿。

(馮少懷とか『口まがり』なんかのやることなすこといちいち気になって。あれは
いったいどういうことなんでしょうか」朱旺が言った。「そうだ、まったく腑に
おちねえ。」 (「金光大道」「CJCS」より)

このように、“呢”は「述べ立て的思い惑い文」と「問いかけの思い惑い文」両方とも作ることができ、日本語の疑い表現「ダロウカ」「カナ」「カシラ」と類似している点が多い。しかし、日本語の疑い文は不確かでありながら情報提供を行うことができるが、“呢”にはこの機能は全く見られない。中国語では、基本的に推量表現の“吧 ba”（だろう）を用いて、不確かな情報を提供している。

(21) A: 几点了? (今何時?)

B: (時計を見て) 嗯, 七点半了吧/*呢。(えーと, 7時半ってとこかな)

このように、中国語の疑い表現“呢”には次のような特徴があると言える。

- 1) 述べ立て的側面・問いかけの側面を両方持つ。
- 2) 疑い形の問いかけ文が作れる。
- 3) 「不確かな判断」の用法がない。

前節で述べた「ヤラ」の疑い表現としての用法の特徴と照らし合わせると、3)は「ヤラ」と共通しているが、1) 2)が示すように「述べ立て的側面しか持たない」という「ヤラ」の特徴はない。意味の観点からも、「あきらめの気持ちを表す」という特徴も持たない。

4.2 中国語の疑い表現 “不知道”

中国語にはもう一つ、「知らない、わからない」の意の動詞“不知道 buzhidao”が副詞的に用いられ、疑い文を作る形式がある。

(22) 不知道她现在过得好不好。(彼女は今どんな暮らしをしているやら。) [疑い文]

“不知道”を用いた(22)は、表面上は「(私は) 彼女が今どんな暮らしをしているかわからない」ということを述べる平叙文と同じ形であるが、意味的には、「彼女は今どんな暮らしをしているやら」に近い、話し手の疑いの気持ちを表す。森(2005)は、現代中国語において動詞表現の動詞的な性質が希薄化し、副詞的表現として用いられる例(すなわち、語彙的な要素が意味的に抽象化し、専ら文法的機能を果たす成分となるという、いわゆる「文法化」)があることを指摘しているが、“不知道”(知らない、わからない)もその一例であるとしている。この点は日本語の「カシラ」が「か知らぬ」から来ているのと似ている。

- (23) a. 我不知道他今天来还是明天来。(彼が今日来るのか明日来るのかわからない。)
 b. 他不知道上哪去了。(彼はどこへ行ったのかしら?)

文法的には“不知道”を用いた疑い文は、「ダロウカ」を用いた疑い文よりもむしろ「ヤラ」を用いた疑い文に近いと考えられる。

第一に、“呢”および「ダロウカ」「カナ、カシラ」を用いた疑い文は丁寧な問いかけとして用いることができるが、“不知道”を用いた疑い文は、日本語の「ヤラ」と同様、丁寧な問いかけにはならない。この点、“不知道”を用いた疑い文は、“呢”を用いた疑い文よりも平叙文的な性質が強い。

- (24) (店員に向かって)
 a. 这个多少钱呢? (これはいくらでしょうか。)
 b. #不知道这个多少钱。(これはいくらやら。)
 (25) (友達に「教えて」という様子で)
 a. 你考了多少分呢? (点数は何点かしら?)
 b. #不知道你考了多少分。(点数は何点やら。)

第二に、「ダロウカ」は根拠が不十分であったりして、推論自体がうまく動かないような時には、結論を出せないという状況を表す。そのため、以下の例文のように、話し手は思考過程を表す文章の最後に、いろいろ考えをめぐらせた後で、「ここ分からなかった」という意味で「ダロウカ」を用いて問題を投げかけることが多い。

- (26) 過去の優勝チームの例を見ると、一次リーグから決勝まで好調を維持し続けて突っ走ったチームはほとんどない。一次リーグで苦しみ、決勝トーナメント（あるいは二次リーグ）に入って見違えるようなチームに生まれ変わって優勝という例が多い。ブラジルも、ここへ来て優勝候補として浮上してきた。だが、このチリ戦のブラジルは、本物なのだろうか?

(後藤健生「激闘ワールドカップ'98」「BCCWJ」より)

一方、“不知道”は話し手の思考過程を表す文章で最後に用いられることは少ない。ほとんどの場合、結論を出す前に文章の途中で用いられる。“不知道”を用いた疑問文は話し手にとって分からない問題であるが、話し手はそのことが結論を出すための障害になるとは感じていない。つまり、話し手にとって、“不知道”を用いた疑問文で述べられていることは話し手にとって重要な問題ではなく、むしろ話し手はそれを判断するのを放棄しているように感じられる。

第三に、“呢”を用いた疑い文が「知ることができるものなら知りたい」という気持ちを含むのに対し、“不知道”を用いた疑い文には「ヤラ」と同じく「知る由もない」というあきらめの気持ちが感じられる。実際、「知りたくても知ることができない」という気持ちで述べる場合は、“不知道”を用いた疑い文の方が自然である。

- (27) (世を去った妻の墓の前でひとり言)

- a. 不知道你在那边过得好不好。(向こうでどんな暮らしをしているやら。)
 b. # 你在那边过得好不好呢。(向こうでどんな暮らしをしているだろうか。)

また、ため息を表す感嘆詞“唉 ai”（ああ）は、“不知道”を用いた疑い文とは自然に共起するが、“呢”を用いた疑い文とは共起しにくい。この点でも、“不知道”を用いた疑い文は、“呢”を用いた疑い文よりも平叙文的な性質が強いと言える。

- (28) a. (唉,) 不知道她现在过得好不好。
 ((ああ) 彼女は今どんな暮らしをしているやら。)
 b. (??唉,) 她现在过得好不好呢?
 (彼女は今どんな暮らしをしてるのだろうか。)

この「知る由もない」というあきらめの気持ちは、述語の肯定形と否定形を並列させた正反疑問文において特に顕著であるが、疑問語疑問文の場合はこのような意味のニュアンスはあまり感じられない。

- (29) a. 现在几点了呢? (今何時だろうか。)
 b. 不知道现在几点了? (今何時だろうか。)

しかし、(29a)の場合は情報の提供が求められるというニュアンスが強く感じられ、この発話に対して聞き手が「さあ」と言ったら不適切な答えになるが、(29b)は答えを求めるニュアンスがそれほど感じられず、この場合「さあ」という答えでも適切であると思われる。このことから、“不知道”は疑問語疑問文の中で用いられる場合、一種の思い惑いの問かけになりうるが、情報提供が得られることをほぼ期待せずに発せられ、間接的で弱い問かけである。この意味では、「知る由もない」というあきらめの気持ちは(28)と比べると顕著ではないが、(29b)でもある程度あると思われる。

第四に、“不知道”を用いた疑い文、特に疑問語疑問文は、副詞“到底”（一体）とともに用いられると「まったくもってわからない!」という判断放棄の叫びになる（表記の上でも感嘆符「!」が自然に使える）。“呢”を用いた疑い文は、“到底”（一体）とともに用いられて強い疑いの気持ちを表す文にはなっても、判断放棄の叫びにまではならない（感嘆符「!」も使いにくい）。それよりも、疑問を投げかけて、さらに知りたいという気持ちが強い（疑問符「?」を使うのがより自然である）。このことも、“不知道”を用いた疑い文が「知る由もない」というあきらめの気持ちを表すことから来る。

- (30) a. 我不知道他此刻到底在想什么! (彼は今、いったい何を考えているのやら。)
 b. 他此时此刻到底在想什么呢?
 (31) a. 不知道他到底在干什么! (彼は一体何やってるのやら。)
 b. 他到底在干什么呢? (彼は一体何やってるのだろうか。)

第五に、“不知道”は「ヤラ」と同様にあきらめの気持ちを強く表すため、情報要求を表す述語とは共起しにくい。“呢”にはそのようなことはない。

- (32) a. 我问他谁来呢? (彼に誰が来るかを尋ねた。)

b. *我问他不知道谁来？

これは前節で、「ヤラ」と「ダロウカ」の違いとして指摘した現象と同じものである。

「ダロウカ」と「ヤラ」の違いと同様に，“不知道”と“呢”の間にも全く同じようなことが起こっている。

最後に，“不知道”は“呢”と同様に、「不確かな判断」を表す用法を持たない。

(33) A：几点了？（今何時？）

B：（時計を見て）*嗯，不知道七点半了。（えーと，7時半ってとこかな。）

“不知道”の用法の特徴を以下のようにまとめることができる。

- 1) 疑問語疑問文では弱い問いかけの思い惑い文を作れるが，基本的には述べ立て的な思い惑い文にしかない。
- 2) 「知る由もない」というあきらめの気持ちを表す。
- 3) 「不確かな判断」の用法はない。

以上のことから，“不知道”は弱い問いかけの思い惑い文を作ることができ，思い惑いから問いかけへの派生が見られ，「ヤラ」より用法範囲が広い²が，中国語の“呢”や日本語の「ダロウカ」「カナ・カシラ」に比べると問いかけの性質が弱く，「ヤラ」に近いと考えられる。「知る由もない」というあきらめの気持ちを表すことが多く，意味的にも「ヤラ」と類似している。

4. まとめ

日本語と中国語の疑い表現の用法の特徴をまとめると，以下のようになる。

表3 日本語と中国語の用法の分布

	疑い文の種類	ダロウカ	デショウカ	カシラ	カナ	ヤラ	不知道	呢
述べ立て	述べ立て的な思い惑い	○	○	○	○	○	○	○
	不確かな判断	○	○	○	○	×	×	×
問いかけ	問いかけ的な思い惑い文	○	○	○	○	×	○	○
	疑い形の問いかけ文	×	○	○	○	×	×	○

表3から，中国語の“呢”は「不確かな判断」という用法を持たない点で異なるが，日本語の「ダロウカ・デショウカ」「カナ・カシラ」と類似の性質を持っていることがわかる。それに対して，“不知道”は問いかけ的な思い惑い文になりうるが，問いかけの側面があま

² 共通語における「ヤラ」はいかなる場合でも問いかけになりえないが，方言では問いかけの思い惑い文になるようである。「問いかけの文末に付けて返事を待つ語」（『日本国語大辞典』）

(i) 皆様お変わりありませんやら。（『日本国語大辞典』）

り強化されることがなく、述べ立て的であると思われる。この点で“呢”と大きく異なり、むしろ日本語の「ヤラ」に近い性質を持っていると考えられる。「ヤラ」と同様に「知る由もない」というあきらめの気持ちを表すことが多く、意味的にも類似している。

以上のことから、疑い表現「ヤラ」は日本語のその他の疑い表現より、中国語の“不知道”に近い性質を持っていると考えられる。

参考文献

- 安達太郎(2002) 「第5章 質問と疑い」『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版。
- 井上 優・黄 麗華(1998) 「日本語と中国語の省略疑問文「αハ?」「α呢?」」『国語学』192, 国語学会。
- 木村英樹・森山卓郎(1992) 「聞き手情報配慮と文末形式 - 日中両語を対照して」, 大河内康憲 編『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』くろしお出版。
- 沈 茅一(1986) 「「やら」についての一考察」, 言語学研究会編『ことばの科学:言語学研究会の論文集』7, むぎ書房。
- 中国社会科学院語言研究所辞典編輯室編(2005)『現代漢語詞典(第5版)』, 商務印書館。
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房。
- 仁田義雄(1994) 「〈疑い〉を表す形式の問いかけ的使用 - 「カナ」を中心とした覚書 - 」『現代日本語研究』創刊号, 大阪大学文学部日本学科現代日本語学講座。
- 日本国語大辞典第二版編集委員会(2001)『日本国語大辞典第二版』小学館。
- 松村 明編(2006)『大辞林』(第三版), 三省堂。
- 宮崎和人(2005)『現代日本語の疑問表現—疑いと確認要求—』ひつじ書房。
- 森 宏子(2005) 「“不知道”の文法化現象について」『中国学誌』20号, 大阪市立大学中国文学会。